

町田市長
石阪 丈一 様

2021年度

町田市環境マネジメントシステム

外部評価報告書

(評価対象年度：2020年度)

2021年12月20日

町田市環境マネジメントシステム
外部評価委員会委員長 松波 淳也

はじめに

町田市では、市職員が率先して地球温暖化の防止に取り組むため、「町田市第4 次環境配慮行動計画（地球温暖化対策実行計画「事務事業編」）」を策定し、削減目標を掲げ、市役所自らの事務事業に伴って排出される温室効果ガスの削減に職員全員で取り組んでいます。さらに、廃棄物の削減や省資源等の環境負荷低減の取組も行っています。これらの取組を推進する仕組みとして「町田市環境マネジメントシステム」を構築し、運用しています。

町田市環境マネジメントシステムでは、運用状況と実績を客観的に評価することを目的として、市民・事業者・学識経験者で構成された「町田市環境マネジメントシステム外部評価委員会」を設置しています。

本報告書は、2021年度に実施された外部評価結果をまとめたものです。

目次

1. 外部評価の方法等	4
(1) 外部評価委員会の構成	4
(2) 評価対象	4
(3) 評価内容	4
(4) 実施方法	5
(5) 外部評価委員会に提示された文書及び資料等	5
2. 外部評価委員会の実施日程及び実施内容	6
3. 外部評価結果	7
(1) 温室効果ガス排出量・エネルギー使用量	8
(2) 資源（廃棄物）、資源（紙）	9
(3) グリーン購入達成率	10
(4) エコオフィス活動（職員共通、施設担当部署）	11
(5) 運用状況	12
4. おわりに（まとめ）	13

1. 外部評価の方法等

2021年度の外部評価委員会は、9月から11月にかけて計2回、市民や事業者、学識経験者9名で構成された外部評価委員による環境マネジメントシステム外部評価を実施しました。

2020年度 外部評価委員会

(1) 外部評価委員会の構成

- ① 構成：市民3名※、事業者3名、学識経験者3名の計9名の委員で構成 ※内1名途中辞退
- ② 任期：2年（現委員の任期は2020年6月から2021年3月）

(2) 評価対象

- ① 組織：全庁全課（市立の小中学校を含む）
- ② 活動：「町田市第4次環境配慮行動計画」に基づくエコオフィス活動

(3) 評価内容

2020年度の活動に対する評価

① 環境パフォーマンス

温室効果ガス排出量、エネルギー使用量、廃棄物排出量等のパフォーマンス

② 環境活動状況

各職場におけるエコオフィス活動及び運用状況（研修の実施、環境環境法令の遵守状況、情報公開）

評価項目

評価項目	評価内容
温室効果ガス排出量 エネルギー使用量	・目標達成状況 ・経年変化状況
資源（廃棄物） 資源（紙）	・経年変化状況
グリーン購入達成率	・経年変化状況
エコオフィス活動（職員共通）	・各職場の活動状況
エコオフィス活動（施設担当部署）	・各職場の活動状況
運用状況（研修の実施、環境法令の遵守、内部環境監査、情報公開）	・実施状況 ・自己点検結果 ・是正対応状況 → 監査結果

評価基準

評価点	評価内容
5	評価できる
4	概ね評価できる
3	普通
2	あまり評価できない
1	評価できない

※2020年度の内部環境監査は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止したことから、今回の外部評価対象からは除外しています。

1. 外部評価の方法等（つづき）

(4) 実施方法

項目	具体的内容
① 基礎情報の提示と説明 (第1回外部評価委員会)	事務局が、環境マネジメントシステムの運用状況及び成果を示す(5)の文書及び資料を第1回外部評価委員会(リモート形式)にて外部評価委員に提示し、内容を説明する。
② 質問・意見徴収	外部評価委員は、事務局より提示された文書及び資料を精査し、評価に向けた質問や意見を事務局に提出する。
③ 評価方法の説明 (第2回外部評価委員会)	事務局は、外部評価委員からの質問・意見をとりとまとめ、第2回外部評価委員会(リモート形式)にて提示し、評価方法を説明する。
④ 評価の実施	外部評価委員は、事務局より提示された文書及び資料を基に(3)の評価項目ごとに評価基準にしたがって評価点と評価意見を付し、事務局に提出する。
⑤ 外部評価報告書のとりまとめ	事務局は、評価結果をとりとまとめる。 外部評価委員会は、すべての評価結果を精査し、外部評価報告書としてとりまとめる。

(5) 外部評価委員会に提示された文書及び資料等

- a. 2020年度町田市環境マネジメントシステム実績報告書
- b. 2020年度町田市環境マネジメントシステム外部評価報告書
- c. 2020年度町田市環境マネジメントシステム市長総括記録
- d. 上記文書及び資料に関連するデータ等

2. 外部評価委員会の実施日程及び実施内容

2021年度の外部評価委員会は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う感染防止対策のため、例年の対面形式ではなく、Webによるリモート形式としました。実施時期及び内容は下表のとおりです。

区分	日時	内容
第1回評価委員会 (Web開催)	9月30日	(1) 2021年度外部評価の進行について (2) 環境マネジメントシステムの実績報告について
質問・意見 徴収	9月30日 ～ 10月11日	各委員からの評価に向けた質問・意見徴収
第2回評価委員会 (Web開催)	11月4日	(1) 土木・公園サービスセンターにおける廃棄物の排出について (報告) (2) 2020年度の実績の評価について
評価	11月4日 ～ 11月11日	各委員による評価の実施
外部評価報告書 とりまとめ	11月11日 ～ 12月20日	評価結果のまとめと市への提言

3. 外部評価結果

外部評価委員による各評価項目ごとの評価点（平均点）は次のとおりです。

温室効果ガス排出量・エネルギー使用量が 4.6点、エコオフィス活動（職員共通）、エコオフィス活動（施設担当部署）が 4.0 点と高めの評価となり、資源（廃棄物）・資源（紙）が 2.0点、グリーン購入達成率が 2.6 点と低めの評価となりました。

評価項目	評価内容	評価点（平均点）
温室効果ガス排出量 エネルギー使用量	・ 目標達成状況 ・ 経年変化状況	4.6
資源（廃棄物） 資源（紙）	・ 経年変化状況	2.0
グリーン購入達成率	・ 経年変化状況	2.6
エコオフィス活動（職員共通）	・ 各職場の活動状況	4.0
エコオフィス活動（施設担当部署）	・ 各職場の活動状況	4.0
運用状況（研修の実施、環境法令の遵守、情報公開）	・ 自己点検結果 ・ 是正対応状況	3.3

評価基準

評価点	5	4	3	2	1
評価内容	評価できる	概ね 評価できる	普通	あまり 評価できない	評価できない

3. 外部評価結果

(1) 温室効果ガス排出量・エネルギー使用量

評価項目ごとの評価点（平均点）及び主な評価意見は次のとおりです。

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
温室効果ガス 排出量・エネ ルギー使用量	4.6	<ul style="list-style-type: none">◆ エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量ともに着実に削減していることは高く評価できる。◆ 電力事業者と随意契約をしている施設についても、代替値未満の排出係数の事業者であることを要件とした結果、温室効果ガス排出量の大幅な削減が可能となったことは大きな前進であり、評価できる。今後のさらなる展開として、随意契約の対象となっている施設を複数組み合わせることで規模のメリットを生み出して、競争入札にもっていくことなど、つくば市の取組といった先進事例も参考に検討していただきたい。◆ 電力事業者の排出係数だけでなく、電源構成も確認し、それに関する情報も提供していただきたい。◆ 電気使用に関して、排出係数の改善がみられる点が評価できる。◆ 気温影響や新型コロナウイルス感染拡大による使用量の落ち込みが削減の要因に含まれていることを考慮しても、随意契約分を含め、排出係数の低い事業者から電力を調達し温室効果ガス排出量の2015年度比10.0%削減を達成したことは評価基準に照らすと「5：概ね評価できる」と解釈できる。◆ 政府目標等外部の状況に照らし合わせた目標再構築を検討していただきたい。◆ 目標達成は評価される。排出係数以外の対策方法も更に高めていただきたい。◆ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による施設休館等がなくなっても削減が続くよう期待する。

3. 外部評価結果

(2) 資源（廃棄物）、資源（紙）

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
資源（廃棄物） 資源（紙）	2.0	<p>資源（廃棄物）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 排出量データに漏れがあった等、データの信頼性に課題がある。排出量は増加傾向で、再利用率は低下傾向という状況で改善姿勢が見られない。 ◆ 土木・公園サービスセンターにおいて、2019年度分の廃棄物排出量（事業系一般廃棄物について）が把握されていなかったことについて、再発防止策を講じる必要がある。 ◆ 廃棄物の2020年度実績については、大型台風の影響を受け、汚泥等の処分が発生した前年度実績よりも139t 増加し、再利用率も低下している。土木・公園サービスセンターの把握漏れや台風予防の清掃等による影響が台風発生による汚泥等の発生量を上回る等、根拠数値の信憑性に疑念を生じる点も散見され、またコロナ影響を勘案しても紙購入量が前年度比で290万枚増加となっていること等を考慮し、「2：あまり評価できない」と判定した。 ◆ 再利用率の低下に対しては特異的な要因の特定だけでなく、新技術を含め新たな再利用法の探索なども必要ではないか。 ◆ 大型台風に備えての側溝清掃による排出量が、2019年の台風後の排出量と大差ないのは解せない。また旧忠生第四小学校の粗大ごみも再活用の余地はなかったのか。今後、閉校が増えることになるので再考してほしい。 <p>資源（紙）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 紙の使用量増加については、コロナの影響もあり、電子化による削減効果を相殺してしまっている可能性があることから、今後の推移を注視していく必要がある。 ◆ 「小・中学校除く」では、職員の意識を変えることで改善されていくことを期待する。 ◆ タブレットを使用した文書の電子共有が定着していくことで、削減に繋がることを期待する。

3. 外部評価結果

(3) グリーン購入達成率

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
グリーン購入達成率	2.6	<ul style="list-style-type: none">◆ 達成率は8割水準を維持しており評価できるものの、低下傾向がみられるため、評価を3とした。◆ グリーン購入達成率が低下傾向にあり、改善に向けて何らかの対応を検討すべきである。◆ 小中学校以外のグリーン購入達成率は2019年度よりも1.2ポイント上昇し88%になっている一方、小中学校においては2.6ポイント低下の74.4%にとどまっている。ただ、小中学校のなかでも学校ごとに達成率にバラつきがあるようであり、達成率の高い学校による調達状況や工夫等に関する情報を共有し、水平展開していくことが望まれる。◆ これまでも同様の指摘をしてきたところであるが、グリーン購入適合品がそもそもない品目については、達成率の算定にあたり分母から差し引くことも検討して良いのではないか。◆ グリーン購入達成率の2020年度実績については、予算面の制約等、不可避な要素が含まれているものの、前年度より1.5%低下している。一方で、実績報告書P34の「各部署におけるエコオフィス活動（職員共通）実施状況」を見ると、各職場の環境推進員の方々が評価した結果では、全庁平均「4.3」と高い値を示しており、現場においては、概ね基準に沿って対応しているとの認識であること等を考慮し、「3：普通」と判定した。◆ 価格優先が非適合の主な理由として掲げられている。現場レベルの判断ではなく予算措置で達成率は改善可能できると思える。

3. 外部評価結果

(4) エコオフィス活動（職員共通、施設担当部署）

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
エコオフィス活動（職員共通）	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ◆ コロナ対策が求められるなかで、省エネ・省資源の取組との両立が難しいこともあったことと思われるが、2019年度と同じ実績を維持しており、概ね評価できる。 ◆ 電気ポットを使用しないことや不用品を有効活用することについては、改善の余地があるようである。 ◆ 12項目あるエコオフィス活動別評価項目のうち、7項目が職場平均で評価基準4と判定される4.2点を上回っており、評価基準2と判定される3.6点を下回る項目は1項目のみである。職場によっては課題が残るものの、職員の高い意識を持った行動を評価し、「4：概ね評価できる」と判定した。 ◆ 概ね省資源化の取組が周知されている。電子データやIoTの活用が業務改善にもつながる事で、今後は相乗的な改善を期待したい。 ◆ 職員の取組が向上しているのは大変いい傾向である。不要な物品の有効利用、公用車の使用等、今後も適正を厳守してほしい。
エコオフィス活動（施設担当部署）	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 日常運用のなかでも昼休み時の照明消灯が54.2%とかなり低い実施率となっている。一律に消灯すれば良いというものでもなく、施設の運用上、消灯が困難なところは除外したうえで、実施率を算定することも考えられるのではないか。 ◆ 昼休みの消灯等、実施率が低い項目が散見されるものの、19項目あるエコオフィス活動別評価項目のうち、14項目（約8割）で実施率90%を上回っており、定期点検、日常運用とも前年度と同水準の実施率を維持されていること等を考慮し、「4：概ね評価できる」と判定した。 ◆ 昼休み時の照明消灯の実施などは原因の特定と改善方法を定めれば大幅に改善できるはずである。 ◆ 昼休みの照明消灯は、来訪者が少ない階での実施を徹底すべきである。

3. 外部評価結果

(5) 運用状況

評価項目	評価点 (平均点)	主な評価意見
運用状況 (研修の実施、 環境法令の遵 守、情報公 開)	3.3	<p>研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 研修実施率は98.5%（学校以外）であり、ほぼ完全に実施されていることは非常に高く評価できる。 ◆ 研修実施率が学校において低下したことは、コロナ禍においてはやむを得ないものと思われる。 ◆ 学校での研修受講率が低いのは恒常的な繁忙もあると思うが、社会的な背景を考えると従来以上に優先度を上げるテーマとして再検討してほしい。 ◆ コロナが収束傾向の現状で、今後研修も実施可能となることを期待する。 <p>環境法令の遵守</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 環境法令遵守の不適合が未だ見られることは大きな問題である。 ◆ 不適合件数が前年度より大幅に減少してはいるものの、不適合が少なからずある状態は問題である。速やかな是正とともに、再発防止策を徹底されたい。 ◆ 前年度と比較して、法令違反または違反に近い事例が大幅に改善され、「環境法令遵守チェックシート」による遵守状況の自己点検の取組も評価できるものの、是正済みではない件名も少なからず残っている。 <p>情報公開</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 本マネジメントシステムを含め、積極的に市民に情報開示し、環境政策を進めていることは評価できる。 ◆ 町田市環境白書は多色刷りでグラフ化（見える化）がなされ、多くの人に理解されやすくしている。

4. おわりに（まとめ）

町田市環境マネジメントシステムは、市の全施設・全職員を対象範囲とし、環境配慮行動計画に基づく市の温室効果ガス排出量削減目標達成のための全職員の環境活動を進行管理する仕組みであり、「職員による内部環境監査」「市民等の第三者による外部評価」「取組実績、内部環境監査結果、外部評価結果の開示」等の透明性の高い評価プロセスを取り入れています。

本外部評価においては、数値データや点検結果をとりまとめた実績報告書等を精査し、運用状況を確認しました。
※2020年度の内部環境監査は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止したことから、今回の外部評価対象には含めていません

職員の日常的なエコオフィス活動や各施設における環境配慮を意図した設備の適正管理等の取組は例年に引き続き定着し、環境マネジメントシステムが適切に運用されていることが伺えました。なお、特に評価できる点、改善が必要な事項は以下のとおりです。

① 環境パフォーマンス

・温室効果ガス排出量（実績報告書P9、P24～P30参照）

エネルギー使用量の削減と環境視点の電力調達（温室効果ガス排出係数の低い電気事業者との契約）により、温室効果ガス排出量が削減されていることは評価できます。今後は、政府が掲げる2050年カーボンニュートラル（温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ排出を全体としてゼロにする）の実現に向けてさらなる取組の推進を期待します。

・資源（廃棄物）（実績報告書P10、P31参照）

排出量は増加傾向にあり、かつ再利用率は低下しており、改善を要します。また、一部データの把握漏れが確認されました。情報の信頼性を確保するために原因分析と再発防止策を講じる必要があります。

・グリーン購入達成率（実績報告書P12、P33参照）

達成率が年々低下しており、2020年度は79.4%まで下がっています。特に小中学校で達成率にバラつきがあることから、達成率の高い学校の取組を水平展開することで達成率の向上を図ることが望まれます。

② 環境活動状況

・環境法令の遵守（実績報告書P17、P38参照）

2019年度から新たに「環境法令遵守チェックシート」の運用を開始し、初年度は不適合件数が80件であったものが2020年度は24件と改善されたことからこの自己点検の仕組みは有効に機能していると推察できます。しかしながら、依然として不適合が発生している状況は問題であり、未是正については速やかに是正を行うとともに、再発防止策を徹底することが必要です。